

# 「水俣病幕引き・チッソ免責」立法に対する 研究者・表現者の緊急抗議声明

本日、参議院本会議の賛成多数により、自民・公明の与党と民主党が合意した「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法案」が可決した。

7月3日に衆議院環境委員長提案として法の案文が関係者に提示されたが、その日のうちに衆議院の環境委員会を審議なしで通り本会議可決。参議院の環境委員会での不十分な審議だけで、提案から一週間足らずで、被害者や関係者が異を唱える法律が成立してしまうことは強行採決と言うほかなく、国民市民に開かれた議会制民主主義の根幹を脅かす暴挙であることをまず指摘せねばならない。

そもそも、水俣病の加害企業が、全被害者の補償を行わないうちに法律によって免責されるとは、どのような事情を勘案してもあってはならないことで、p p p（汚染者負担原則）に照らして国際信用を損ない、国内的には他の公害薬害事件に対しても悪例となる。公害の未然防止や被害補償を原因会社の業務本体から取りはずすことが一般化すれば、企業活動や製品に由来する環境や生命への脅威は、際限なく広がってしまうであろう。

水俣病の発見から50年以上たっても問題が解決していないことは国際的に恥じるべき事であるが、解決と幕引きとは全く違う。当法案が強引な幕引きである理由は、まず、対象をあくまで申請者に限っていることである。まだまだ手を挙げきれない人たちが多数いる現実を無視している。患者個々によって症状の重さや種類が異なることも無視している。感覚障害が認められない特徴を持つ胎児性世代が無視されている。そして更に、誰が検査をし、誰が水俣病被害者と判定するのか明確でない。本当に被害者の全面的補償救済を今度こそ図るなら、当初の民主党案にあった住民健康調査は不可欠であろう。未認定患者救済に名を借りた幕引きは決して許されない。

しかも、この法律で認定と給付を受けるものは公害健康被害補償法の認定申請や水俣病争訟の権利を閉ざされる。他方、分社化で免責されるとチッソ相手の訴訟そのものが不可能になる。いずれも訴訟の権利を法が剥奪するもので、違憲立法の疑いもある。これも、この法律を認め難い重要な点として指摘せねばならない。

水俣病患者への補償は関西訴訟最高裁判決の示す通り国の責務でもある。しかし国の責任について、前文で「政府としてその責任を認め、おわびしなければならない」と述

べながら国家による補償法になっていない。そもそも「初めに分社化ありき」であるため法の名称や前文と内容が著しく不整合である。しかも十分な審議を経ないままの可決成立であるため、法の実働までには疑問や課題が山積している。

私たちは、多年の研究活動・表現活動を通じて培った水俣病被害者・住民の皆さんとの知縁をもとに、今後も「水俣病幕引き」「チッソ分社化―株売却―清算」を許さず、水俣病被害の一層の解明をめざし続けることをここに声明する。

2009年7月8日

(以下連名) 112人

相川 泰 (鳥取環境大学)  
アイリーン・美緒子・スミス (環境ジャーナリスト)  
青柳 行信 (NGO 人権・正義と平和連帯フォーラム福岡)  
芥川 仁  
栗屋 かよ子 (四日市大学)  
石橋 涼子 (医師)  
石牟礼 道子  
磯野 弥生 (東京経済大学)  
一ノ瀬 正史 (映画カメラマン)  
伊藤 貴雄 (創価大学)  
稲垣 聖子 (立教大学大学院生)  
井上 ゆかり (熊本学園大学水俣学研究センター)  
色川 大吉 (歴史家・元不知火総合学術調査団団長)  
牛島 佳代 (福岡大学)  
柄本 美代子 (東京国際大学)  
遠藤 宏一 (南山大学教授)  
大津 愛子 (熊本学園大学)  
奥田 みのり (ライター)  
尾崎 寛直 (東京経済大学)  
小野塚 春吉 (財団法人 政治経済研究所)  
金子 満里 (荒馬座座員)  
鎌田 慧 (ルポライター)  
川島 宏知 (「天の魚」)  
川俣 修壽 (ジャーナリスト)  
神戸 英彦 (新潟大学)  
北村 浩 (財団法人 政治経済研究所)  
鬼頭 秀一 (東京大学)  
窪田 泰 (低周波音症候群被害者の会 臨時代表)  
久保田 好生 (季刊「水俣支援」編集部)  
熊谷 博夫 (福岡工業大学)  
栗原 彬 (立命館大学)  
黒田 光太郎 (名古屋大学)

相川 泰

Aileen Miki Smith

芥川 仁

井上 ゆかり

柄本 美代子

大津 愛子

鎌田 慧

川島 宏知

鬼頭 秀一

栗原 彬

小池 征人 (映画監督)  
 小林 繁 (明治大学・ほっとはうす理事)  
 小林 直毅 (法政大学)  
 最首 悟 (和光大学名誉教授)  
 齋藤 純一 (早稲田大学)  
 齊藤 恒 (木戸病院名誉院長)  
 坂巻 幸雄 (元通産省地質調査所主任  
 研究員)  
 塩田 武史 (写真家)  
 下田 守 (下関市立大学)  
 白木 喜一郎 (「天の魚」 同行人)  
 白鳥 紀一 (元 九州大学)  
 白山 映子 (東京大学大学院博士課程)  
 末石 富太郎 (大阪大学・滋賀県立大  
 学名誉教授)  
 杉本 裕明 (ジャーナリスト・環境カ  
 ウンセラー)  
 杉山 さゆり (デザイン事務所勤務)  
 菅井 益郎 (国学院大学)  
 鈴木 一誌 (ブックデザイナー)  
 鈴木 文枝 (編集者)  
 関 耕平 (島根大学)  
 関 礼子 (立教大学)  
 関島 保雄 (弁護士 前公害弁連幹事長)  
 成 元哲 (中京大学)  
 高岡 滋 (神経内科リハビリテーション  
 協立クリニック院長)  
 高石 伸人 (NPO 法人ちくほう共学舎  
 「虫の家」事務局長)  
 高草木 光一 (慶應義塾大学)  
 竹村 洋介 (近畿大学)  
 田尻 雅美 (熊本学園大学水俣学研究  
 センター)  
 多羅尾 幸徳 (東京農工大学)  
 丹波 博紀 (東京大学大学院生)  
 土本 基子 (映画同人シネ・アソシエ)  
 ティモシー・ジョージ (米ロードアイ  
 ランド大学 歴史学部)  
 土井 妙子 (金沢大学)  
 堂前 雅史 (和光大学)  
 富樫 貞夫 (熊本学園大学)  
 中村 志真 (荒馬座座員)  
 中村 淳子 (東京大学学生)  
 西尾 漢 (NPO 法人原子力資料情報室共  
 同代表)  
 西山 正啓 (記録映画作家)  
 野口 淑子 (中学校教諭)  
 萩原 修子 (熊本学園大学)  
 畑 明郎 (大阪市立大学特任教授)  
 花崎 阜平 (著述業)

最首 悟 齋藤 純一

齊藤 恒

坂巻 幸雄

塩田 武史

杉山 さゆり

菅井 益郎

鈴木 一誌

鈴木 文枝

関 耕平

高石 伸人

田尻 雅美

丹波 博紀

Timothy A. George

堂前 雅史

畑 明郎 花崎 阜平

花崎 攝 (演劇デザインギルド)  
 花田 昌宣 (熊本学園大学)  
 原田 正純 (熊本学園大学)  
 伴 英幸 (NPO 法人 原子力資料情報室  
 共同代表)  
 日吉 フミコ (水俣病市民会議)  
 藤野 紘 (水俣協立病院名誉院長)  
 藤本 延啓 (熊本学園大学水俣学研究  
 センター)  
 藤原 寿和 (公害薬害職業病補償研究会)  
 船橋 晴俊 (法政大学)  
 古沢 広祐 (国学院大学)  
 古谷 杉郎 (公害薬害職業病補償研究会)  
 細谷 孝 (中央大学)  
 星埜 守之 (東京大学)  
 堀 孝彦 (名古屋学院大学名誉教授)  
 堀 正嗣 (熊本学園大学社会福祉学部)  
 堀川 三郎 (法政大学社会学部)  
 本間 慎 (フェリス学院大学前学長)  
 松田 健児 (創価大学法学部)  
 松本 勉 (水俣病市民会議)  
 丸山 定巳 (熊本大学客員教授)  
 丸山 徳次 (龍谷大学)  
 宮河 伸行 (荒馬座座員)  
 宮北 隆志 (熊本学園大学水俣学研究  
 センター)  
 宮澤 信雄 (水俣病事件研究者)  
 宮本 憲一 (大阪市立大学名誉教授)  
 宮本 成美 (写真家)  
 村山 武彦 (早稲田大学)  
 柳田 邦男 (ノンフィクション作家)  
 山口 幸夫 (NPO 法人 原子力資料情報  
 室共同代表)  
 山下 英俊 (一橋大学)  
 除本 理史 (東京経済大学)  
 吉崎 久美子 (熊本学園大学)  
 吉田 喜一 (都立産業技術高専教授)  
 吉田 志賀子 (低周波音症候群被害者  
 の会)  
 吉村 良一 (立命館大学法務研究科教授)  
 飯嶋 修治 (九州大学)  
 寺西 俊一 (一橋大学)  
 戸田 清 (長崎大学環境学部)

花崎 攝

花田昌宣

藤本延啓

堀 孝彦

丸山定巳

宮澤信雄

宮本憲一

宮北隆志

吉崎久美子

除本理史